日本生体医工学会 平成 30 年度第 2 回理事会議事録

日時 平成 30 年 8 月 3 日 (金) 14:00~17:00

会場 コンベンションホール AP 東京八重洲通り 11 階 O ルーム

<出席者>

理事長： 木村 裕一

副理事長： 杉町 勝, 大城 理 (兼関西支部長)

理事： 川田 徹, 佐藤 嘉伸, 野村 泰伸, 平田 雅之, 松田 哲也,
生田 幸士 (第 58 回大会長), 井村 誠孝, 中島 一樹,
成瀬 恵治 (第 59 回大会長), 松村 泰志 (遠隔出席), 横澤 宏一

監事： 中沢 一雄

<オブザーバー・出席者>

幹事： 原口 亮 (遠隔出席), 永岡 隆

オブザーバー： 工藤 信樹 (北海道支部長・遠隔出席), 堀 潤一 (甲信越支部長),
長谷川 純一 (東海支部長), 鈴木 亮一 (北陸支部長・遠隔出席),
伊良皆 啓治 (九州支部長・遠隔出席), 椎名 毅 (第 60 回大会長),
荒船 龍彦 (若手研究者活動 WG)

<欠席者>

理事： 守本 祐司, 石原 謙 (兼中国四国支部長), 黒田 知宏, 坂田 泰史

監事： 澤 芳樹, 吉田 正樹

幹事： 京相 雅樹

<理事会議題>

30-2-2-1 平成 29 年度第 7 回理事会議事録承認の件

30-2-2-2 平成 30 年度第 1 回理事会議事録承認の件

30-2-3-1 入退会審査対象者

30-2-3-2 名誉会員推戴の件

30-2-4 委員会・WG 構成の件

30-2-5 定款改定について

30-2-6-1 生体医工学シンポジウム 2017 について

30-2-6-2 生体医工学シンポジウム 2018 について

30-2-7-1 選奨報告書について (2017-004)

30-2-7-2 第 41 回日本生体医工学会中国四国支部大会 若手講演奨励賞の申請

30-2-8-1 国際委員会議事概要

30-2-8-2 World Congress 2027 の誘致について

- 30-2-8-3 APCBME 2020 の準備について
- 30-2-9-1 若手 WG 講演会事業・サマースクールについて
- 30-2-9-2 若手 WG YIA について
- 30-2-10 電子投票について
- 30-2-11 2019 年学会大会の開催について
- 30-2-12 学会の財務状況と財務執行の今後の方針について
- 30-2-13 臨床研究法 WG について
- 30-2-14 第 57 回大会：大会講演者宿泊費について
- 30-2-15-1 第 24 回第 1 種ME 試験結果報告理事会結果報告
- 30-2-15-2 第 24 回第 1 種ME 技術実力検定試験問題
- 30-2-15-3 第 24 回第 1 種ME 技術実力検定試験解答例
- 30-2-16 協賛・後援リスト（回覧資料）

1. 理事会成立の件 総務

定款 34 条 2 項に則り、定足数 10 名を超える理事 12 名の出席（内 2 名はテレビ会議システムによる参加であり、参加役員は映像・音声について確認した）、監事 1 名の出席を確認したことから、本理事会は成立した。

2. 議事録の確認 総務

資料 30-2-2-1、2 に基づき、平成 29 年度第 7 回議事録および平成 30 年度第 1 回議事録の確認が行われ、全会一致で原案通り承認された。

3. 入退会状況の件 会員

資料 30-2-3-1 および回覧資料により入退会状況の確認が行われ、全会一致で承認された。賛助会員が 1 社減ったが、引き続き企業からの参加を検討すべきとの意見があった。名誉会員推戴の件が資料 30-2-3-2 に基づいて審議され、橋爪 誠先生、牧川方昭先生の推戴が全会一致で承認された。ご意向を伺ったうえで、名誉会員記を贈呈し、生体医工学誌で告知することとなった。

4. 委員会・WG 構成の件 各委員会

8 月 2 日時点での各委員会構成リストが回覧され、現時点で就任予定の委員については全会一致で承認された。リストが未完成の委員会については、旧委員会が継続しているとみなして活動を継続し、決まり次第審議する。

公益法人化対応 WG は公益法人化が完了したことから廃止する。大会あり方委員会は、ここまでの審議結果に基づいて、2019 年大会で実践する段階に至ったことから、いったん活動を停止することが全会一致で承認された。

各種委員会は委員会規程第 4 条に基づいて、幹事 2 名が必須であることが確認された。ただし、WG には本規定は適用されないことを確認した。

5. 定款改定について 総務

資料 30-2-5 を元に、支部の考えを学会の運営に反映するために、支部長を理事とすることについて審議した。

監事と同様に、支部長に対して理事会での発言を認める旨を定款に追加する方法、支部長を理事会での承認を付して理事とする案が提示された。

いずれの方策を採っても、公益法人に関する法令上の問題は無いことを確認した。一方で、理事数が現行の 18 名から最大 27 名になるため、理事会の定足数が増えて成立の要件が厳しくなることが問題として挙げられた。

支部からの理事については、理事長に推薦枠を持たせるという案が提示され、さらに、企業からの理事についての推薦枠の設定も検討することになった。支部長の意見を伺い、これに基づいて次回理事会に再度提案する。定款や規約の改定が必要となることから、次の総会に向けて検討を進めることとなった。

6. 生体医工学シンポジウムについて シンポジウム WG

資料 30-2-6-1 に基づき、生体医工学シンポジウム 2017 の決算報告があり、全会一致で承認された。

生体医工学シンポジウム 2018 について、資料 30-2-6-2 に基づき、予算案が提示された。60 万円の仮払いが全会一致で承認された。また、選奨であるポスターアワードの規定・指針についても全会一致で承認された。

7. 選奨委員会からの報告・審議

現在各賞の選奨委員を選定中であり、次回理事会で委員を承認いただきたい旨の報告があった。また、選奨の報告ならびに申請が資料 30-2-7-1、2 に基づいて行われ、全会一致で承認された。YIA の受賞者報告があった。

8. 国際委員会からの報告・審議

資料 30-2-8-1 に基づいて報告された。2024 年に開催の IFMBE の大会である WC2024 は、オーストラリア・アデレードでの開催となり、日本への誘致は叶わなかった旨が報告された。

次の WC2027 誘致を検討することが提案された。ただし、シンガポール、プラハ、アデレードと、アジア・パシフィック地域での開催が比較的続くため、次回に日本が選ばれることが難しい。ただし、地域の偏りが重視されないこと、今回は日本が投票で 2 位になったとの情報や、そろそろ日本で開催すべきとの国際的な意見があることが指摘された。

参加費からの収入は大きいですが、為替の問題や、IFMBE へ数百万円の支出が求められることから、予算的に実施が可能かとの指摘もあった。IFMBE から資金の貸し付けや助成金があるため、開催は不可能ではない。

2027 年の開催であることから、若手 WG との連携が必要であり、予算の検討や、併催先の医学物理学会との意見調整もあるため、国際委員会において今後検討を継続する。

APCBME 2020 の準備について、資料 30-2-8-3.1~3.3 に基づいて報告された。APCBME2020 の岡山大会との併催について、WG(実行委員会とプログラム委員会)の設立が全会一致で承認された。また、学会のウェブサーバーの活用を検討することとなった。

日本臨床工学技士会（以下技士会とする）との、IFMBE に関する連携の必要性があることが説明された。現在、IFMBE のアジア地区選出理事である東大・佐久間先生の主導で、技士会の IFMBE への加入のための手続きが進んでおり、2021 年にオーストラリア・アデレードで開催される IFMBE 総会での承認事項となる予定である。承認されれば、日本が IFMBE で持つ議決権は 4 となることから、これを学会と技士会とで案分することになるので、総会に対して十分余裕をもって、技士会との協議の場を設ける必要がある。

技士会とは、ME 試験において学会との関係が深いことと、第 57 回大会(札幌)で企画された北海道臨床工学技士会との合同シンポジウムで議論されたように、研究面での連携を模索する必要もあることから、学会全体として対応することになるため、技士会との連携に関わる WG を立ち上げることが全会一致で承認された。

9. 若手研究者活動 WG からの報告

講演会事業、サマースクール、YIA について資料 30-2-9-1、2.1、2.2 に基づいて報告された。講演会事業の演者を選定中であること、サマースクールが開催予定であること、札幌大会での YIA 実施報告があった。沖縄大会でも YIA を実施すること、札幌大会での YIA 受賞者を若手 WG に入れることを検討していることが報告された。可能な限り赤字を減らすこと、若手 WG 企画のイベント参加者に対し、入会を積極的に勧めることが依頼された。

10. 電子投票について 選挙管理

今年度の代議員選挙で、学会支援機構が持つ電子投票のシステムが更新予定であり、代議員選挙には間に合わないことが判明したことから、今年度は実施しないこととなった。2020 年度の代議員選挙での実施に向けて、検討を進める。

11. 第 58 回大会について 実行委員会

2019 年学会大会の開催について報告・審議があった。会場となる沖縄コンベンションセンターの予約が終わった。実行委員会は組閣中であること、琉球大学と沖縄科学技術大学院大学に連携を依頼していること、ジーイングス株式会社への大会事務の依頼を内定したこと、カードで支払いした額の 5% がジーイングス株式会社の手数料となること、会場設営などの現地での大会業務の委託は沖縄コングレに依頼する予定であることなどが報告された。沖縄コングレから提出された見積が高額であったことから、再度の見積もりを依頼している。アルバイトの源泉徴収やマイナンバー関連業務のジーイングス株式会社への委託も検討する。

沖縄県の支援が確定した。参加者が 1000 人以上 1300 人未満であれば、会費の 50% かつ 400 万円以下、1000 人以下なら 300 万円以下の補助が受けられる。シャトルバス運行費の半額補助も受けられる。シャトルバスは 2 か所のホテル集積地域と学会会場を数台で運行する予定である。懇親会でのエンターテインメントは 1000 人以上なら 4 種類から 2 種類を選べるが、内容は沖縄県に一任する。懇親会は安めに抑える予定である。コンベンションセンターは 3 棟あるが、会議棟と劇場棟のみとし、高額な展示棟は借りない予定である。ポスターはピロティになる予定である。

OS の公募があるので応募を検討してほしい旨依頼があった。関東支部に仮ウェブサイトは設立済みであると報告があった。学会サイトをアーカイブするため、今後ジーイングス株式会社との調整が必要である。

学会からの補助金 300 万円の仮払いが全会一致で承認された。看護理工学会との併催となることから、参加費や予算は分離して考えることと、会場費等の案分についての調整が必要であることを確認した。支出が肥大化しないよう要請され、次回理事会で予算案が提示される。

12. 学会の財務状況と財務執行の今後の方針について 財務

公益法人への移行完了後の最初の 1 会計年度を終えたことから、資料 30-2-12 に従って財務状況について報告があり、これに基づいた財務執行にあたっての今後の方針が提案された。

ME 試験等を除いた公益事業会計を確認すると約 800 万円の赤字であった。財産は約 2.5 億円あるが、用途が限定される基金を除くと約 6500 万円となることから、基金を取り崩さない限り、このままでは 8.3 年で財務が破綻することが判明した。

財務執行については、公益事業会計の収支の改善が必要であり、会員増を含む収入の確保のための方策の策定及び支出削減のための公益事業の見直しが、本年度の課題となることから、次回理事会で審議することとなった。

但し、事業安定化基金が約 5500 万円ある等、学会の財務は緊急に逼迫しているわけではないので、学会の活性を損なわないようにしつつ、計画的な予算執行が求められる。

法人会計は約 880 万円の支出があった。なお、学会運用における事務経費や、理事会及び委員会の開催に関わる経費である。一方、公益社団法人に対する定めにより、会費の 50% をその収入に充てることになっていることから、収入は約 920 万円であった。以上から約 40 万円の黒字であり、収支は釣り合っている。

編集に係る赤字額が大きいことから、生体医工学誌の発行数を減らすことを検討する。ただし、編集事業は学会の学術的活動にとって重要であることと、ABE がインパクトファクターを取得した後に予定されている掲載料の収入、及びその会員割引の設定に伴う会員増並びに会費収入の増加が見込めることから、現在の事業規模を継続する。

大会開催のための費用は、いずれの支部でも大会の開催を可能とすることが学会の活性化に有効であると考えことから、当面は現状を維持する。しかし赤字額は、学会から大会会長への交付額である 300 万円に留めることとなった。

若手 WG や支部、専門別研究会、IFMBE、ME 専門認定事業は、それぞれ学会の活性化に資するためには、減額は難しいことから、当面は現状維持とする。但し、予算内での支出を原則とし、かつ、赤字の縮減を心がけることになった。

生体医工学科活性化委員会は赤字額が大きいことから、その削減を検討することとなった。

学会賞は学会賞基金 1060 万円が遊休資産扱いなので、これを取り崩して各賞の経費に充てることで収支を改善する。

ME 試験は、学会として重要な公益事業であるとともに、収入源でもあるので、内容の活性化を図ることで収益を増やす方向で検討する。

次回理事会で、各種事業の見直し、及び基金の使い方について財務委員会から発議される。また、各事業担当は予算内で事業を進めるよう依頼された。

13. 臨床研究法 WG について 臨床研究法 WG

資料 30-2-13 に基づいて報告された。WG の学会内及び学会以外からの構成員、活動内容、時間進行が全会一致で承認された。

14. 第 57 回大会について 第 57 回大会実行委員会

大会講演者宿泊費について、資料 30-2-14 に基づき説明があった。特別講演の講師に規程額を超える宿泊費を支出したが、高齢であること及び大会での講演を依頼した相応の地位におられることから、妥当であるとして、旅費規程第 6 条(旅費支給方法の特例)に基づいて全会一致で承認された。

15. ME 技術実力検定試験について ME 技術教育

資料 30-2-15-1 に基づき、第 24 回第 1 種 ME 技術実力検定試験の合格者案のリストが提示され、全会一致で承認された。

16. その他

協賛等の状況が回覧された。

ME教育WG委員長の平田先生より医学部生向けのテキスト執筆が進められているので、原稿執筆依頼があった場合は協力をお願いしたいとの依頼があった。予算の問題があるので、電子書籍形式での発行なども検討する。

次回理事会は10月の予定。秘書への連絡を希望する理事は事務局へ連絡する旨依頼があった。

以上